

チェリーの会だより

2011年 No.11

発行者 公立那賀病院内 乳がん患者会「チェリーの会」



がんサポート講演会に行ってきました

突然のがん告知、不安におびえながらの治療の日々。そして、落ち着きを取り戻した後、みなさんだったら何をしますか？

2月11日(金)、和歌山では珍しく雪がふる中、第3回がんサポート講演会に参加してきました。今回の講師は、片木美穂さん(卵巣がん患者会スマイリ 代表)と天野慎介さん(悪性リンパ腫患者ネクサス代表、がん対策推進協議会委員会)。お二人は、20代・30代でのつらいがん体験から、積極的に医療機関・行政に働きかけ、講演会活動をなさっています。



片木さんは、「患者からみた標準治療・臨床試験」について話

されました。患者は、主治医から標準治療を勧められても、名医のスペシャルな治療をうけたいと望みます。でも、インターネットなどで調べたスペシャル治療は、本当に効果があるかどうかわからない治療法。それに比べて、標準治療は、大勢の患者が参加した臨床試験によって、効果と副作用が証明された最も確かな治療方法です。だから標準治療は安心して受けられるのに、各種のがん診療ガイドラインを見るとよくわかりますが、残念ながらあまり活用されていません。みなさんが今受けている治療は、臨床試験(新薬の効果と副作用を確認して、これまでの標準治療と新薬の比較を行う試験。)で確かめられた標準治療です。これからも新しい治療を作っていくために臨床試験は、大切なのです。日本でも臨床試験をしていかなければなりません。臨床試験を受ける場合には、メリット・デメリットや多施設で行われているかなどを聞き、紙一枚の説明だけではなく、十分納得するまで説明を聞くことが大切ということでした。



天野さんは、「ドラッグラグ(海外で承認された薬剤が日本で承認されるまでの時間の差)」について話されました。



日本は、新薬の承認が欧米に比べ2年半も遅れているそうです。なぜ遅れるかというと、

治験(医薬品の製造販売承認のために行われる臨床試験)開始が遅い。

治験自体に時間がかかる。

治験参加者が少ない。

厚労省の審査が遅いことなどが原因だそうです。

すでに承認されている薬剤でさえ、他のがんに使おうとすると、
また**治験**をやり直す必要があるとのこと。

びっくりしたのは、日本で臨床試験をして、海外で高く評価された
治療法なのに、日本では、認められていないものがあるそうです。

患者・その家族になってから、**もとめる医療が受けられない**といったこと
にならないように、一人ひとりができることをしていきましょう。

片木さん、天野さん、お忙しい中、和歌山まで来ていただき、本当にありが
とうございました。

医療者と患者さんが
協議し合って、よりよい
医療をめざしましょう。



和気あいあいの親睦会

3月19日(土)、和歌山市内のダイワロイネットホテルでチェリーの会の親睦会がありました。1月に予定していた
新年会が、諸事情で延期になったので、心まちにしていました。

おいしいお料理をいただいて、楽しいおしゃべりして、ゲームで笑って、
楽しい時間をすごしました。



久しぶりに参加された
方もいらしたので、話が
はずみました。 (*^_^*)

指の体操……あれ?できない (@_@;)

お誕生日おめでとうございます。
これからもよろしくお祈りします

3月18日が、才誕生日だった谷野ドクターへ、
みなさんから愛のこもったプレゼント。



支援の輪をひろげましょう 東日本大震災



3月11日の出来事は、一生忘れることができないでしょう。
病をとおし、人の心の痛みを経験なさっているみなさま、お心
を痛めていらっしゃると思います、お一人お一人ができる
ことをしていきましょう。

募金、生活物資の寄付、節電、祈り…みなさんの心が被災地
のみなさまにとどきますように、そして、支援の輪がひろがり
ますように。

